

都道府県名

宮城県

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	仙台市立広瀬小学校								
学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	5	5	5	4	4	4	2	29	41
児童数	167	189	163	155	156	157	3	990	

研究の概要

## 1. 研究主題

できた！わかった！楽しい！生き生きと学ぶこどもの育成  
～学び合いを大切にしたい算数の授業づくりを通して～

## 1. 研究内容与方法

## (1) 実施学年・教科

- 1・2年生算数（子どもの理解度に差が出やすい教科であるため）  
3・4年生算数（子どもの理解度に差が出やすい教科、学年であるため）  
5・6年生算数（子どもの理解度に差が出やすい教科、学年であるため）

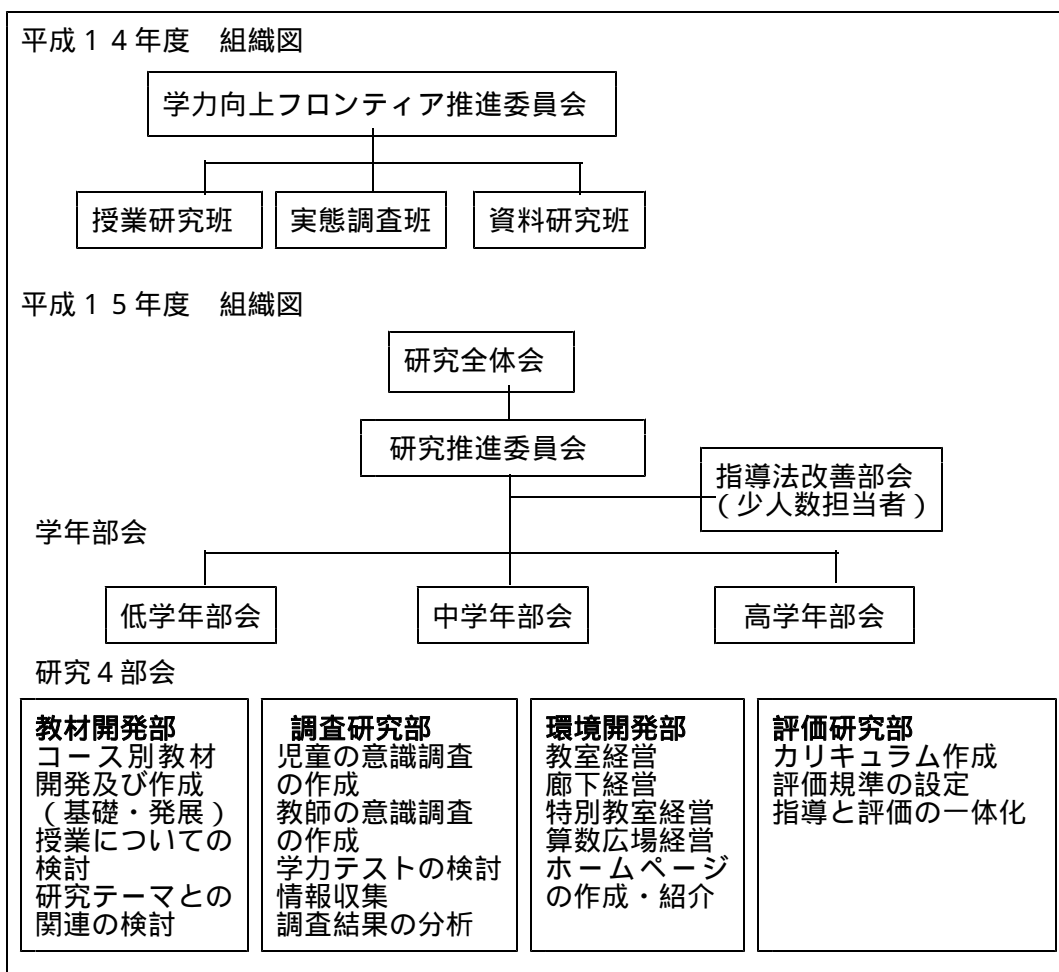
## (2) 年次ごとの計画

平成 14 年度	<p>テーマ 確かな学力の向上を目指した指導の工夫 ～算数科の学習を通して～</p> <p>研究の見通し（仮説） 算数科の指導において、少人数・T T・習熟度別指導など、個に応じたきめ細かな指導方法・指導体制の工夫改善を図っていけば、基礎・基本を確実に定着させるとともに自ら学び自ら考える力を身に付け、学力を向上させることができるであろう。</p> <p>研究内容・方法</p> <p>(1) 個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫改善 指導方法と指導体制 1・2年：算数科における少人数指導 3・4年：算数科におけるT T 5・6年：算数科における選択習熟度別少人数指導</p> <p>(2) 発展的な学習や補足的な学習における教材の開発 少人数指導の導入と教材の工夫・改善 個に応じた課題，教材の工夫改善</p> <p>(3) 児童生徒の評価を生かした指導の改善 実態把握のための評価 児童一人一人の学習状況を記録する学習ファイルの作成</p>
----------------	--

平成15年度	<p>テーマ できた！わかった！楽しい！生き生きと学ぶ児童の育成 ～学び合いを大切にした算数の授業づくりを通して～</p> <p>研究の見通し 算数科の指導において，教材開発や多様な学習形態，評価の工夫改善を図り，学び合いを大切にした授業を工夫することにより，基礎・基本を確実に定着させ、自ら学び自ら考える力を身に付け，学力を向上させる方策を探る。</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>(1) 発展的な学習や補充的な学習など個に応じた指導のための教材の開発 興味・関心を生かした単元構成やコース別学習 意欲化、継続化を図るための教材教具の工夫，場の設定</p> <p>(2) 個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫改善 思考力を深める問題解決的な学習の展開 児童自らが学び方を選択する主体的な学習の展開 少人数，T T，コース別など多様な学習形態を取り入れる工夫</p> <p>(3) 児童一人一人の学力の評価を生かした指導の工夫改善 基礎・基本の定着を図る評価計画表の作成 算数的な活動や話し合いをする学び合いの場の設定 指導に生きる評価</p> <p>全学年少人数指導を基本として取り組む体制となった。</p>
--------	--

平成16年度	<p>テーマ できた！わかった！楽しい！生き生きと学ぶ児童の育成 ～学び合いを大切にした算数の授業づくりを通して～</p> <p>研究の見通し 算数科の指導において，教材開発や多様な学習形態，評価の工夫改善を図り，学び合いを大切にした授業を工夫することにより，基礎・基本を確実に定着させ、自ら学び自ら考える力を身に付け，学力を向上させる方策を探る。</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>(1) 発展的な学習や補充的な学習など個に応じた指導のための教材の開発 興味・関心を生かした単元構成やコース別学習 意欲化、継続化を図るための教材教具の工夫，場の設定</p> <p>(2) 個に応じた指導のための指導方法・指導体制の工夫改善 思考力を深める問題解決的な学習の展開 児童自らが学び方を選択する主体的な学習の展開 少人数，T T，コース別など多様な学習形態を取り入れる工夫</p> <p>(3) 児童一人一人の学力の評価を生かした指導の工夫改善 基礎・基本の定着を図る評価計画表の作成 算数的な活動や話し合いをする学び合いの場の設定 指導に生きる評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・意識調査（児童・教師）</li> <li>・公開研究会</li> <li>・学力の変容把握</li> <li>・実践事例集の作成</li> <li>・研究のまとめ</li> </ul>
--------	--

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

- 1 学力検査 (CRT)
  - ・算数に関する学年別到達度については、平成14年度はどの学年も全国比とほぼ同じか下回る結果であったが、平成15年度は2年、3年、4年、6年が上回った。
  - ・算数の観点別到達度については、14年度は、どの学年も関心・意欲・態度が下回っていた。また、4年、5年、6年の表現・処理が下回っていた。平成15年度は、表現・処理については、全国比より下回る学年は4年生だけとなった。また、知識・理解については、全国比より下回る学年は5年生だけとなった。一方、関心・意欲・態度は、ポイントでは上昇しているが、全国平均には到達していない。
- 2 児童の意識調査
  - ・児童の意識調査で「算数が好き・どちらかといえば好き」の割合は、7月から12月の間に74.6%から83%で約8.4%上昇した(1年生を除く822名実施)。平成14年6月と比べると14.4%の増加。また、「算数が楽しいと感じるのは」の回答は、「答えが合っていたとき、式や問題の解き方を自分で見つけられたとき」が多かったが、「色々な考えを見つけたとき、自分の考えを発表できたとき」も増加傾向にある。「算数の勉強でわからないとき」の回答は「家の人や友達に聞く・本で調べる」が減少し、「先生に聞く、自分で考える」が増加傾向にある。
- 3 研究の視点から
  - 学習意欲を高める教材の工夫
  - ・具体物や半具体物を使って操作活動をさせたことにより、学習内容のイメージ化が図られ、理解に結びつけることができた。

- ・教材・教具の工夫や具体物の提示，体験的活動の導入により，子どもの興味・関心を喚起し，より意欲的に取り組むようになった。
- ・単位時間のまとめの段階で，複数の習熟問題を用意することで，自分の学習状況に合わせて，意欲的に取り組むことができた。
- 指導方法・指導体制の工夫
- ・選択による習熟度別少人数指導を取り入れることにより，主体的に学習に取り組むようになった。
- ・児童が自ら選択して学ぶ学習や思考の過程で別れて学ぶ学習，お互いの考えを学び合う場面を取り入れた学習形態等を工夫したことにより算数を学ぶ楽しさを味わわせることができた。
- ・作業的，体験的な算数的活動を取り入れたことで学習意欲が高められた。
- ・単元の中で基礎基本を振り返る場面やスモールステップを踏んだ指導過程を取り入れたことが基礎基本の定着に結びついた。
- ・問題作りをして友達同士で解き合う活動を取り入れたことにより，理解を深めたり，学びあったりすることができた。
- ・場の設定の工夫や少人数指導をすることにより，安心した雰囲気の中で子供たちがのびのびと発表したり質問したりするようになった。
- 評価を生かした指導の工夫
- ・学習カードの中に学習を振り返る内容を入れたり，自己評価をさせたりすることは，児童の変容を見とる上で有効であった。
- ・段階的なプリントを準備することで，児童の理解度，進度を把握することができた。
- ・学習プリント，学習計画表の自己評価や感想を次の指導に生かし，改善することができた。
- ・評価規準に照らし合わせて評価を積み重ねることによって，つまずきが明らかになり，手立てがたてやすくなった。

## 2. 今後の課題

- ・学習状況に応じて，補充的な学習と発展的な学習ができるような指導や教材をさらに工夫する必要がある。
- ・少人数指導とＴＴを組み合わせた指導など，指導体制・指導方法をより工夫した授業づくりを深めていく必要がある。
- ・基礎・基本のより確実な定着を図るために，評価のあり方を検討していく必要がある。
- ・子どもの意欲をさらに高め，より自主的に学習させるための，よりよい環境づくりを進める必要がある。
- ・本校児童の算数科の実態を踏まえ，学ぼうとする力（関心・意欲・態度）に重点を置いて取り組みたい。
- ・副題にある「学び合い」の本校としてのとらえ方について，全職員で共通理解を図る。
- ・「学び合い」について学年の系統を考えていく。
- ・少人数の中でも「考える場面、練り合う場面」を重視していく。

## 学力等把握のための学校としての取組

- ・学力調査の実施（年１回）
  - < 目的 >  
平成14年度から3年間継続して実施する学力検査を分析し，児童の既習内容に関する到達状況を把握し，今後の指導方法の改善に生かす。
  - < 実施内容 >  
前年度学習内容についての観点別到達度学力検査（ＣＲＴ）
  - < 時期 >  
平成14年6月11日、平成15年6月10日、平成16年6月
- ・児童・教師の意識調査の実施（年２回）
  - < 目的 >  
算数学習、少人数指導に対する意識と算数学習への意欲を把握し、今後の指導を行う際の資料とする。
  - < 実施内容 >  
自校で作成のアンケート（選択式、記述式）
  - < 時期 >  
平成14年7月12月、平成15年6月12月、平成16年6月、12月

- ・ 計算力定着度調査
  - < 目的 >
  - 「数と計算」領域について、児童の計算力の定着度を把握し、個に応じた補充・支援などの指導を行う際の資料とする。
  - < 実施内容 >
  - 計算領域について自校で作成した問題（学年別）
  - < 時期 >
  - 平成15年4月、11月、平成16年4月、11月

#### フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- 平成15年度
  - ・ 平成15年4月25日  
P T A 総会で保護者へ説明会を実施
  - ・ 平成15年12月11日  
学習指導要請訪問時にフロンティアスクール校及び近隣校、保護者への授業研究の公開
  - ・ フロンティアスクールの取り組みをHPで紹介  
( <http://www2.sendai-c.ed.jp/^hirose/index.html> )
  - ・ 平成15年12月5日  
一関地区学力向上フロンティア研究推進会議にてフロンティアティーチャーの実践発表
  - ・ 算数科評価規準の作成
  - ・ 研究のあゆみ作成
- 平成16年度
  - ・ 平成16年11月26日 公開研究会（予定）
  - ・ 研究紀要の作成

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- 【新規校・継続校】       15年度からの新規校       14年度からの継続校
- 【学校規模】             6学級以下                       7～12学級  
                                  13～18学級                     19～24学級  
                                  25学級以上
- 【指導体制】             少人数指導                       T・Tによる指導  
                                  一部教科担任制                 その他
- 【研究教科】             国語                       社会                       算数                       理科  
                                  生活                       音楽                       図画工作                 家庭  
                                  体育                       その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】       有       無